

グリーン物流優良事業者表彰において 部門賞「物流 DX・標準化表彰」を共同受賞

～AI を活用したサプライチェーンモデルによりサステナブルな物流を実現～

株式会社薬王堂（本社：岩手県盛岡市、代表取締役社長執行役員 西郷孝一）は、株式会社PALTAC（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長 吉田拓也）及び佐川急便株式会社（本社：京都府京都市、代表取締役社長 木村正秀）と共に、グリーン物流パートナーシップ会議が主催する「令和6年度物流パートナーシップ優良事業者表彰」において「物流DX・標準化表彰」を共同受賞し、12月23日(月)に行われた「令和6年度グリーン物流パートナーシップ会議 物流パートナーシップ優良事業者表彰」において表彰されました。



表彰式の様子

(左から株式会社 PALTAC 営業本部副本部長 佐塚大介様、国土交通省 物流・自動車局長 鶴田浩久様、佐川急便株式会社 営業開発部部长 吉田誠明、株式会社薬王堂 物流部マネジャー 坂佳展様)

今回の受賞は、小売業を起点に卸売業、物流事業者を含むサプライチェーン・マネジメント領域において、異業種・異部門の複数企業が連携し、AIと商品需要予測から最適なトラックの台数と積載率を割り出す仕組みを構築したことが評価されたことによる受賞となりました。この仕組みの活用により、非食品部門と食品部門の共同配送や小売店における検品作業などの効率化を実現し、さらに車両台数の最適化によりCO₂排出量の削減にもつなげました。（詳細は末尾をご参照ください）

薬王堂は、今後も新たな発想と新しい技術の導入により、各企業様との連携・協働の取り組みを進め、サプライチェーン全体の最適化・効率化を通じた社会・環境課題の解決に貢献してまいります。

【本リリースに関する報道関係者からのお問い合わせ先】
株式会社薬王堂 経営企画部 泉山 徳朗 / 古川 朱莉
TEL 019-621-5021 (代表)

令和6年度 AIと需要予測を活用した遠隔地向けフルライン型シェア物流



<h3>事業者</h3> <p>佐川急便株式会社 株式会社薬王堂 株式会社PALTAC</p>	<h3>事業概要</h3> <ul style="list-style-type: none"> 生産性が著しく低下する人口減少地域に向けた食品・非食の積合せ共同輸配送を実現 需要予測により運行車両数を最適化、幹線輸送、店舗配送を含めた全車両の積載率を向上、輸送距離を短縮 CO2排出量の削減による環境負荷低減を実現 店舗での仕分けなどの作業負荷が減少し、店舗オペレーションでも生産性を向上
---	---

<h3>実施前</h3> <p>Before</p> <p>①長距離運行 ②輸送経路の寸断 ③低積載率 ④待機・回収間違い</p>	<h3>実施後</h3> <p>After</p> <p>①拠点共有 ②AIと需要予測* ③共同配送 ④サイクラーエコノミー</p>	<h3>DX施策 AIと需要予測</h3> <p><商流>のメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機会損失の防止 ● 定番品の発注作業効率化 ● 廃棄ロスの改善 <p><物流>のメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物量予測の速度・精度向上 ● 配送積載考慮し、物量を積載効率に最適化(増便抑止・積載向上)
---	--	--

<h3>課題</h3> <ol style="list-style-type: none"> ① 岩手から青森・秋田へ県を跨いで店舗納品で回収もあり車両拘束が長時間化 ② 積雪により輸送経路が寸断し冬期は配送中止も発生 ③ 輸送距離が長いことで低積載でも積合せが出来ない ④ 1店舗に複数車両が納品し、順番待ちや回収間違いが発生 	<h3>施策</h3> <ol style="list-style-type: none"> ① 配送拠点を食品・非食品で共有し貨物を集約、共同配送・共同回収の起点とした雪害などで幹線が寸断されても配送拠点の在庫から供給され、流通がストップしない体制を構築 ② AIと需要予測による車両台数の最適化 ③ 食品・非食品を混載し、フルラインで最短経路で店舗へ納品、帰り荷で資機材回収可能な配送網を構築 ④ 段ボール回収により地域のサーキュラーエコノミー構築へ貢献
--	---

特徴

- ◆ 業界で初めてドラッグストアでの配送積載効率考慮型のAIと需要予測を導入
- ◆ 人口減少地域に向けた店舗配送は、事業の継続性に課題があり、全国的に輸配送対応出来る佐川急便との共同輸配送を通じて他のエリアにも波及
- ◆ 遠隔地配送は小売事業者に通じた課題であり、サプライチェーンの業界初の「仕組み」として、パッケージ化し、他の小売業及び、他の異業種、部門を含めた多角的な視点から課題解決できる事業として、他業態、他業種への水平展開も期待できる

効果

- ◆ CO2削減量 : 687t-CO2/年 (14.3%) 削減
- ◆ トラックの走行距離 : 1,471千km/年 (23.2%) 削減
- ◆ トラックの走行時間 : 31千時間/年 (27.33%) 削減
- ◆ トラック台数削減 : 3,756台/年 (17.9%) 削減